

会 議 名	平成23年度第1回港区3R推進行動会議
開 催 日 時	平成23年5月17日(火)午前10時から12時まで
開 催 場 所	港区立エコプラザ3階会議室A
委 員	(出席者) 崎田座長、内藤裕子委員、北村委員、木原委員、 桜林委員、榊中委員、藤野委員、小林委員、鈴木委員、臼井委員、 高木委員 (欠席者) 内藤俊之委員、島村委員、亀田委員、武田委員、 今福委員
事 務 局	北川、山崎
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	区挨拶 1. 3Rフォーラムの報告 2. エコライフ・フェアMINATO2011出展 3. 平成23年度3R推進事業の進め方 4. その他
配 付 資 料	[事前配付] なし [席上配付] 1. 港区3R推進行動会議 設置要領 2. 平成23年度港区3R推進行動会議 委員名簿 3. 3Rフォーラム「“食”から始める3R」全体報告 4. 3Rフォーラム「“食”から始める3R」パネル展示会開催報告 5. 古着・廃食用油回収実施報告 6. 「事業者対象生ごみ減量セミナー」開催報告 7. 「エコライフ・フェアMINATO2011」出展概要 8. 平成23年度3R推進事業の進め方(案) ・ エコライフ・フェアパンフレット、古着・廃食用油回収チラシ ・ 「港区の清掃とリサイクル2011」 ・ 「みんなと3R～レポートその3～」 ・ 「集団回収の手引き」

主な発言・報告内容

1 3Rフォーラム報告

事務局からの報告

3Rフォーラム「“食”から始める3R」全体報告

平成22年度を中心テーマであった「食の3R」に特化した内容で全体会（3Rフォーラム）を開催した。パネル展示や事業者向けセミナー、3R漫談、エコレシピトークショー、段ボールコンポストを広めるひろばなどを通じて「食の3R」の大切さを伝える機会とする予定だったが、東日本大震災の発生により、途中で中止となった。期間中は古着・廃食用油のモデル回収も実施した。

3Rフォーラム「“食”から始める3R」パネル展示会開催報告

3Rフォーラム開催期間中に、区内で「食の3R」に取り組む諸団体と協力しパネル展示会を開催した。来場者がただ見るだけの展示会ではなく家庭で取り組んでいる「食の3R」を記入できるようなボードも準備し、参加型の展示会にした。

古着・廃食用油回収実施報告

3Rフォーラム開催期間中に古着・廃食用油の回収を実施した。より多くの方に参加してもらえるように3日間の日程を設定した。今後の古着回収についてアンケートで聞いたところ、行政が回収することや集団回収での実施を求める要望が多く寄せられた。今年度も引き続き、区有施設やイベント会場での回収の実施（年数回）や集団回収団体へのPRの強化を検討する。廃食用油の回収は回収件数が少なかったことと、約半分が未使用（賞味期限切れ）であったことから引き続き検証をし、家庭できちんと使いきることをPRしていく必要がある。

「事業者対象生ごみ減量セミナー」開催報告

事業者を対象として生ごみの減量方法を伝えるセミナーを開催した。セミナーでは積極的に生ごみの減量に取り組んでいる飲食店やビル管理会社の事例を紹介し、最後に参加者同士での情報交換を行う予定だったが、東日本大震災の発生により、飲食店の事例紹介の途中で中止となった。

主な発言

- ・ 古着回収に関し、海外では教会等に常設の古着回収ボックスを設置して回収している事例がある。総合支所に古着回収ボックスを常設できれば、古着を出す区民にとっては便利になる。
- ・ 古着回収に関し、常設の古着回収ボックスにはごみ等も入れられてしまうことがある。人常駐して回収したり、古着がごみではないことを区民に周知したりする必要がある。

- ・ 古着回収ボックスの常設については、横浜市などの先進事例を検証してみる。
- ・ 古着回収に関し、地域の福祉会館を拠点として使うことはどうか。
- ・ 古着回収に関し、情報提供や周知の工夫が必要である。
- ・ 集団回収の手引きに関し、集団回収のシステムの周知・拡大が重要である。
- ・ 拠点回収は近隣住民にとっては便利だが、遠い住民にとっては不平等感がある。
- ・ 税金をかけて行政回収を行なうか、区民による集団回収を推進するのか、区の方針をしっかりと検討し示す必要がある。
- ・ ごみ減量セミナーの参加事業者募集は、早めの連絡と、予算措置があれば協力できる。
- ・ 参加事業者募集の協力は以前にも申し出があった。今年度からすぐに協力依頼し、参加者確保に努めて欲しい。

2 「エコライフ・フェアMINATO2011」出展概要

事務局からの説明

5月21日に開催されるエコライフ・フェアMINATO2011で、家庭で不用となった古着・廃食用油の資源回収を実施する。古着は回収業者に売却し海外で選別後、再利用(リユース)・再生利用(リサイクル)される。廃食用油は、回収業者を通じてBDF(バイオディーゼル燃料)、石けん、塗料、肥料などにリサイクルされる。ブースではパネル等を活用し3R推進行動会議の紹介も行う。

主な発言

- ・ 高齢者が古着回収に参加する場合、広尾から有栖川宮記念公園へは上り坂で大変なので、事務局で介助できるようにしてほしい。
- ・ 昨年度、参加者から「次回の古着回収はいつか」という質問が多かったので、それに回答できるように年間スケジュールを年度初めに決めてほしい。
- ・ 各地区のイベントで古着回収をすれば、年度初めに実施スケジュールが立てられる。検討して欲しい。

3 平成23年度3R推進事業の進め方

事務局からの説明

平成22年度の第4回推進行動会議(平成23年2月28日開催)で、平成23年度の事業の進め方に関する議論を行った。その内容を踏まえ、平成22年度を中心テーマであった「食の3R」をさらに発展させ、より多様な主体を巻き込むプロジェクトとするために、平成23年度は「みんなと食の3Rプロジェクト」として4分野で企画案を構築した。1分野目として事業者(ホテル業)と区民を対象とした「事業者(ホテル業)の減量効果と区民のライフスタイルの見直しを目的とした企画」、2分野目として事業者(小売業)と区民を対象とした「スーパーの全面協力を得ながら事業者(小売業)のごみ減量を区民・

事業者の連携で進めていくことを目的とした企画」、3分野目として区民50世帯と段ボールコンポスト講座受講生OB・OGを対象とした「段ボールコンポスト講座の受講生を核として、区内50世帯程度で段ボールコンポストによるごみ減量の動きを作るとともに、減量の定量化を行う企画」、4分野目として地域のまつりの出展者を対象とした「イベントでのリユース食器の利用を促進する企画」を検討している。

主な発言

- ・ 事業者と区民の企画に関して、事業者が同業者に内部を見学させるかは確認が必要である。
- ・ 事業者（小売業）と区民の企画に関して、スーパーマーケットは消費者が買いやすいように小分けを行うことで生ごみが増えることに悩んでいるが、消費者に伝えられないでいる。消費者は、事業者側が悩んでいることを聞き、消費行動を変えていくことに役立たせる。消費者は食品を買った後の3Rはできるが、買う前までの3Rについては事業者と共に考えなくてはならない。事業者の工夫や苦勞を紹介してもらうことにより、消費者が気づきを得られる機会とする。
- ・ 事業者（小売業）にとって消費者のニーズを聞けるのは貴重な機会である。消費者と事業者が提案しあえるような機会があればよい。
- ・ 事業者（小売業）と区民の企画に関して、協力依頼したい店舗名を具体的に挙げてほしい。
- ・ 事業者（小売業）に関して、店舗に港区ならではの特征があるナショナル麻布やフードマガジンと協力するのはどうか。
- ・ 事業者（小売業）に関して、商店街の取り組みをうかがうことも可能か。
- ・ 年度初めに事業全体の年間スケジュールを出すべき。会議など、委員の相談で決められるものは、日にちまで確定させてほしい。
- ・ 6月に開催する第1回企画会議で、年間スケジュールを提出する。

4 その他

主な意見

- ・ 清掃工場の見学会で使用されるビデオを学校等に配布するのはどうか。
- ・ 地震の影響でガラス等の破損があり、4月上旬までの区内排出不燃ごみが1.7倍となった。
- ・ 清掃事務所では、今年度の立入指導に入る事業所からの排出紙ごみを900トン減量させることを目標としている。

決定事項

- ・ 次回企画会議は6月21日（火）10時から12時に、港区立エコプラザで開催する。

